

平成25年度 STI 予防委員会研究報告

横須賀市医師会 STI 予防委員会

<緒 言>

横須賀市医師会と横須賀市保健所は、長年に亘って横須賀市内に発生するS T I (Sexually Transmitted Infections=性感染症) 撲滅及び予防のために密接な協力体制を維持して来た。その為毎年、各年度ごとに横須賀市におけるS T I の発生状況に対する実態調査を行っている。ここに平成25年度の調査結果を集計し、検討を加えたので報告する。この様なS T I の調査は他の地方自治体でも行われているところもあるが、泌尿器科、婦人科、皮膚科の三科共同での集計は横須賀市のみと思われ、貴重な集計結果と評価されている。

<対象及び方法>

平成25年4月から平成26年3月までの期間に横須賀市内の協力医療機関(別記)を受診した患者さんを毎月、横須賀市医師会にF A Xにて届け出てもらい、横須賀市保健所の協力で集計した。

平成6年度より、泌尿器科、皮膚科、婦人科及び性病科を標榜する医療施設全てに届出の依頼と届出用紙を配布している。

膣カンジダ症は症例が多いこと、必ずしもS T I ではないこともあり、届け出は婦人科医の自主性にまかせ、届け出されたものについてのみ集計した。

非淋菌性尿道炎の「その他」については、クラミジア及び淋菌の検出はなかったが、明らかにS T I が考えられる尿道炎につき届け出され集計した。子宮頸管炎の「その他」も同様である。

<結 果>

1. 届け出施設と回収率

49施設(病院7、診療所42)にアンケートを依頼し、届け出に協力いただいた施設は40施設で回収率は82%であった。その内訳は病院が6/7(86%)、泌尿器科診療所5/6(83%)、婦人科診療所13/14(93%)、皮膚科診療所8/11(72%)、混合科診療所8/11(73%)で昨年とほぼ同じであった。

2. S T I の総数

平成25年度S T I 届け出数を年齢別、性別、病名別に表1に示した。全届け出数は782件で、昨年の731件に比べ10.7%増加し、一昨年の658件より18.9%多かった。

3. 疾患別の統計

1) 梅毒：初期梅毒は3例、後期潜伏梅毒は1例であった。昨年度は初期梅毒は5例であり、減少した。

2) 淋菌：淋菌性尿道炎は109例で全て男性であった。本年は昨年の86例を26.7%も上まわり、一昨年の89例、一昨々年の64例を大きく上回った。14歳～19歳の10代男性3例が罹患した。中心は20歳から30歳代に多く50歳から少なくなっている。

淋菌性子宮頸管炎は29例で昨年7例とくらべ4倍も突然に増加している。これは男性の淋菌性尿道炎の26%にあたり、又、クラミジア性子宮頸管炎の16%である。本年も淋菌性咽頭炎が女性で4例報告されている。

3) クラミジア感染症：クラミジア性尿道炎は154例で、その内148例が男性で昨年の130例を少し上まわり、ここ数年の減少傾向は止った。男性のクラミジア疾患は淋菌の1.4倍とやや減少した。一昨年度は淋菌の1.6倍、昨年は1.7倍であり、少しその差は縮まった。年齢別では淋菌とほぼ同様の傾向を示しており、20歳～30歳代が中心であった。本年度は男性の10代の頻度は11例、女性では1例であった。

クラミジア性子宮頸管炎は184例で昨年の188例とほぼ同じで、一昨年の165例を10%近く上まわっている。年齢別には14歳から19歳のハイティーン層が35例で全体の18%で、昨年19%、一昨年25%とくらべやや下まわっている。男性の同年令層の7%に比較して著しく高く、注目される。しかも10代34例(18%)又、20歳～24歳が57例(31%)、25歳～29歳が32例(17%)であり、29歳までが67%を占めている。

本年もクラミジア性咽頭炎が男性1例女性6例が報告されている。

4) その他のSTI：陰毛しらみ症3例、(男3例、女0)、性器ヘルペス143例(男32例、女109例)で昨年の143例とほぼ同じであり、その内、初発76例、再発67例で、再発が47%を占めていた。尖圭コンジローマは73例(男33例、女40例)で、昨年の51例を43%も増加した。

5) 一般細菌など：その他の病原体を原因とするSTIは26例(3.3%)で昨年とくらべ激減している。

4. 年齢別及び性別発生頻度

全症例782例について、年齢別の頻度を見ると、10歳代68例(9%)、20歳代323例(41%)、30歳代190例(24%)、40歳代124例(16%)、50歳代33例(4%)、60歳以上は39例(5%)であった。この年齢別の比率は20歳代、30歳代で昨年とほぼ同じで全体の69%を占めていた。

男女別の発生頻度では、男性357例(46%)、女性425例(54%)で、昨年とくらべ男性がやや増加した。しかし女性が男性の1.2倍であった。例年女性は40歳を越えると急に発生率の減少の傾向を示しているのも例年のとおりである。

5. 感染源

表2にSTIの感染源について示した。男性の感染源については、性風俗での感染が99例(不明を除く男性全体の52%)が1位で、友人が72例(38%)で2位であった。女性では配偶者からの80例(51%)が1位であり、友人からの73例(46%)が次に多かった。

6. 感染地域

感染地域について、表3に示した。平成21年度から性風俗からの感染に限って集計しているため今までの統計とは比較できない。横浜市が最も多く34例（不明除く63例の内54%）、横須賀市3例（5%）、川崎市3例（5%）、国外は0であった。

<考 察>

1. 総 括

平成25年度のSTI届け出総数は782例で昨年の731例にくらべ7%増加しており、平成15年度から続いた減少傾向が平成23年からは上昇に転じており、本年度も増加している。淋菌感染症はほぼ1.5倍増加し、クラミジアは微増した。ヘルペスは変わらず、尖圭コンジローマが73例と昨年より、22例43%も増加した。本年度全例が51人も増加したのは淋菌47名、尖圭コンジローマ22名の増加が主たる原因である。現在STIの中で、最も頻度の高い淋菌とクラミジアだけに注目すると（表4）、男性は両者の合計258例、女性は229例、全体で487例と昨年の436例を51例も上まわり男女比は1:0.89と5年ぶりに男性が上まった。全症例の男女比は1:1.2で昨年に続き本年も女性が多い。

届け出施設は、49施設中40施設で回答率は82%と今までの最高の回収率であった。本年も淋菌性尿道炎4例、クラミジア咽頭炎7例が報告されている。健康保険の問題もあるかと思うが、耳鼻科医も含む積極的な検査が望まれる。

2. 各 論

- 1) 梅毒：図1の如く、減少の一途をたどっていたが、平成13年度に21例と突然増加した。その後平成14年、15年とほぼ減少傾向にあり、初期梅毒に限ってみると、3例で余り増加もしていない。全国的には増加傾向にあると言われている。
- 2) 淋菌：昭和50年頃から梅毒と入れかわる様に増加して来ている。一時エイズショックのためと思われる減少を平成5年頃示したが、その後激増して、平成11年度148例、12年度119例、13年度142例、そして14年度123例、15年度126例と横ばい状況であった。19年度98例、20年度79例、そして21年度は58例と著しい減少を示したが、平成22年には64例と微増し23年度106例と急に増加し、24年度は95例とやや減少していたが、25年度は突然142例と昨年の95例を大幅に増大している。
- 3) クラミジア：男性のクラミジア性尿道炎は平成11年度89例、12年度137例、13年度165例、14年度162例、15年度135例、16年度152例、17年度123例、18年度133例、19年度123例、20年度98例、21年度108例、22年度103例と下降傾向を示しているが、23年度は118例とやや上昇し本年は132例と6年ぶりに大きく上昇した。女性のクラミジア感染症も16年度192例、17年度181例と減少傾向、18年度167例、19年度151例、そして20年度161例と減少傾向をみせたが、

21年度は180例、22年度も180例、23年度は172例で全経過をみると少し上昇傾向を示していたが、24年度は209例と12年ぶりに200例を超えた。本年度はやや減少し196例であった。

- 4) その他のSTI：性器ヘルペスについては22年度から初発と再発を区別し統計をとった。初発は76例、再発は67例で、再発がほぼ半数の47%を占めていた。全体としては昨年とほぼ同数であった。尖圭コンジローマ73例と昨年来を22例上まわった。それぞれはそれほど重大な疾患ではないが、確実に毎年同程度の数の発生を見ていることも忘れてはならないことであろう。
- 5) 感染源：男性の感染源は昨年と同様1位は性風俗業の女性の99例（52%）であった。ただ不明も多く、患者の回答も虚偽のものもありそのような印象である。女性は例年とほぼ同様で配偶者からと友人が半々くらいあった。これも正しい申告かどうか不明である。
- 6) 感染地域：3年前から性風俗からの感染の地域にしばって統計をとったため、従来の結果と異なったものである。横浜市が最も多く34例（54%）次は横須賀市3例（5%）、川崎市3例（5%）、国外での感染はなかった。地元の横須賀市が少ないのは不明である。

<おわりに>

1. 平成11年～14年は全STIの届出数は900人であったが、15年、16年は800人台になり、17年725人、18年から更に減少傾向で600人台と減少していたが、24年度は731人と急激に増加、今年782例と更に増加した。
2. この増加の原因は、淋菌感染症の47例増加、尖圭コンジローマの22例増加による。真の原因は不明である。
3. 回収率は82%と高く、この統計の価値を高めている。多忙の中、毎月調査のご回答にご協力下さり、当委員会には感謝しています。
4. 本年度はクラミジア性咽頭炎、淋菌性咽頭炎が計11例報告された。男性のクラミジア咽頭炎1例が報告されており、咽頭の検査をする施設が少しずつ増加していると推定している。各施設で検査を施行すれば更に多く報告が予想される。今後の検討課題である。
5. 例年述べているが、この統計資料をどの様に生かすか当委員会の検討課題である。全国サーベイランス情報と時々異なる傾向を示しており、横須賀市独自の傾向を見ていくのも一つの課題かもしれない。

6. 昨年度からこの結果の要約したものを横須賀市のホームページに発表している。
7. 当会の資料は神奈川県性感染症学会に報告され、永年に亘る市内全域における調査は日本では少なく、非常に貴重であると評価されている。来年度も報告の予定である。

文 献

1. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成4年度性病予防委員会研究報告、1992
2. 公平昭男、古畑哲彦、原上、小川英、大沢章通、松岡俊介、鈴木忍、花田剛：横須賀市における性病およびSTDの動向、神奈川医学会雑誌、20、47-51、1993
3. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成5年度性病予防委員会研究報告、1993
4. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成6年度性病予防委員会研究報告、1994
5. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成7年度性病予防委員会研究報告、1995
6. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成8年度性病予防委員会研究報告、1996
7. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成9年度性病予防委員会研究報告、1997
8. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成10年度STD予防委員会研究報告、1998
9. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成11年度STD予防委員会研究報告、1999
10. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成12年度STD予防委員会研究報告、2000
11. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成13年度STD予防委員会研究報告、2001
12. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成14年度STD予防委員会研究報告、2002
13. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成15年度STD予防委員会研究報告、2003
14. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成16年度STD予防委員会研究報告、2004
15. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成17年度STD予防委員会研究報告、2005
16. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成18年度STD予防委員会研究報告、2006
17. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成19年度STD予防委員会研究報告、2007
18. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成20年度STD予防委員会研究報告、2008
19. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成21年度STD予防委員会研究報告、2009
20. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成22年度STD予防委員会研究報告、2010
21. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成23年度STI予防委員会研究報告、2011
22. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成24年度STI予防委員会研究報告、2012

表1 病名・年齢・性別集計

(平成25年度)

病名コード	病名	性別	合計	0-14	15	16	17	18	19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-	年齢不明	
1	梅毒初期	男	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	梅毒後期潜伏	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3	梅毒先天性	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	性器ヘルペス初発	男	22	0	0	0	0	0	0	6	3	1	3	5	1	0	0	0	3	0
		女	54	0	0	1	0	0	1	7	16	10	4	5	3	4	0	0	2	1
5	性器ヘルペス再発	男	12	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0	0	4	0
		女	55	0	0	0	0	0	0	7	6	7	2	10	8	2	0	0	13	0
6	淋菌性尿道炎	男	109	1	0	0	0	2	0	32	15	23	9	8	12	2	0	0	4	1
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	非淋菌性尿道炎クラミジア	男	148	0	0	0	1	6	4	33	29	20	18	14	12	3	1	0	4	3
		女	6	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
8	非淋菌性尿道炎一般細菌	男	4	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	非淋菌性尿道炎トリコモナス	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	1	0	0	0	0	0
10	非淋菌性尿道炎その他	男	18	0	0	0	0	1	0	7	1	2	2	2	1	1	0	1	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11	子宮頸管炎クラミジア	女	184	0	1	3	4	16	10	57	32	24	18	12	6	0	1	0	0	
12	子宮頸管炎淋菌	女	29	0	1	1	4	4	0	4	6	2	4	0	0	0	0	3	0	
13	子宮頸管炎一般細菌	女	14	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	5	4	2	0	
14	子宮頸管炎その他	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
15	トリコモナス膣炎	女	22	0	0	0	1	0	0	4	4	2	3	0	3	2	0	3	0	
16	陰毛しらみ症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
17	尖圭コンジローム	男	33	0	0	0	0	1	0	1	8	4	10	5	2	0	1	1	0	
		女	40	1	0	0	0	0	0	19	6	5	4	4	1	0	0	0	0	
18	淋菌性咽頭炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	4	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
19	クラミジア咽頭炎	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
		女	6	0	0	0	1	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
20	その他	男	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計		782	3	2	5	11	31	16	190	133	108	82	69	55	21	11	39	6	

表2 STIの感染源

(平成25年度)

感染源	小計	男	女
不明	436	168	268
友人	145	72	73
配偶者	93	13	80
性風俗	102	99	3
その他	6	5	1
合計	782	357	425

(平成25年度)

表3 STIの感染場所(感染源:性風俗)

感染場所	小計	男	女
横須賀市	3	3	0
横浜市	34	34	0
川崎市	3	3	0
相模原市	0	0	0
鎌倉市	0	0	0
逗子市	0	0	0
三浦市	0	0	0
葉山町	0	0	0
その他県内	0	0	0
県外	23	20	3
国外	0	0	0
不明	39	39	0
合計	102	99	3

表4 淋菌及びクラミジア感染症の推移

年度	淋菌		クラミジア		計
	男	女	男	女	
11	145	20	89	159	413
12	118	13	137	221	489
13	142	17	165	184	508
14	121	16	162	190	489
15	114	12	135	180	441
16	121	22	152	192	487
17	103	13	123	181	420
18	110	17	133	167	427
19	79	19	123	151	372
20	71	8	98	161	338
21	47	11	108	180	346
22	61	15	103	180	359
23	84	22	118	172	396
24	79	16	132	209	436
25	109	33	149	196	487

図1 40年間の梅毒・淋病報告数年次的推移

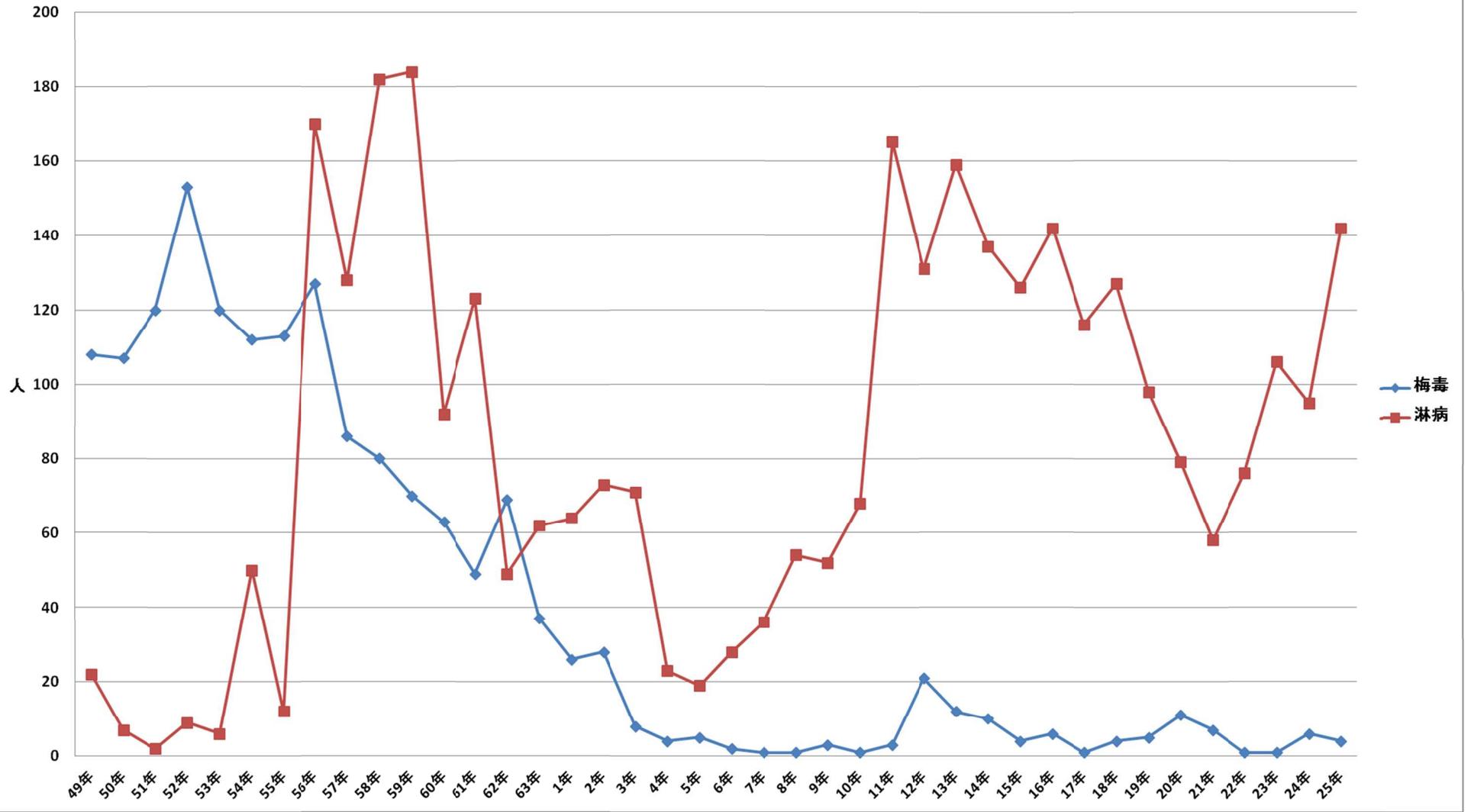
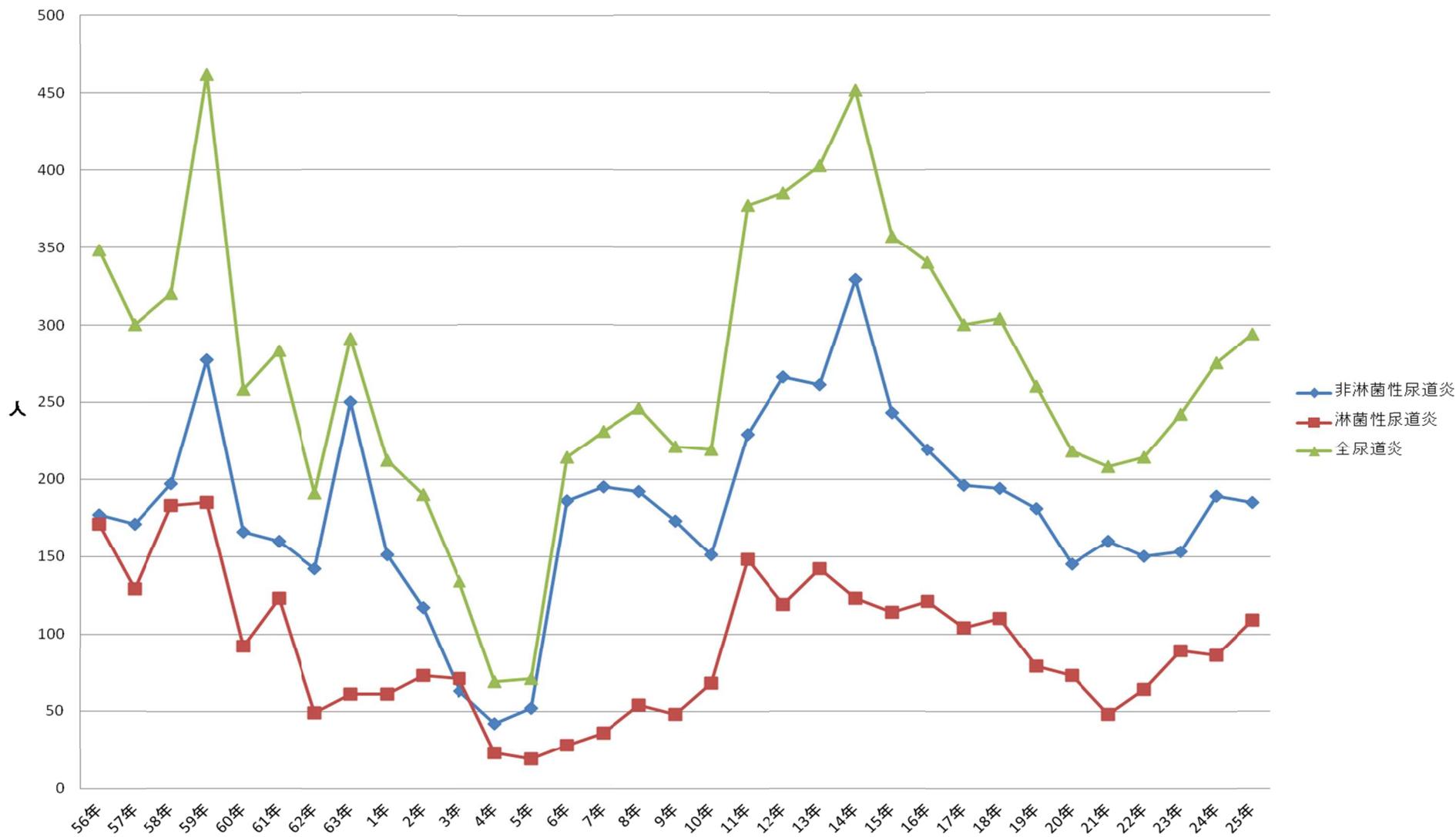


図2 33年間の尿道炎報告数年次の推移



S T I の届け出にご協力下さいました各施設の方々に、深く感謝いたします。

＜平成25年度 協力医療機関＞

【泌尿器科】

久里浜泌尿器科クリニック、里見腎泌尿器科、新村皮フ泌尿器科クリニック、ふくおか泌尿器科クリニック、古畑泌尿器科クリニック、よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック

【産科・婦人科・産婦人科】

今井ウィメンズクリニック、内出医院、うみかぜレディースクリニック、北久里浜産科婦人科クリニック、国立クリニック、高レディースクリニック、後藤産婦人科医院、小松原レディースクリニック、坂井産婦人科医院、佐々木医院、鈴木産科婦人科医院、つのだレディースクリニック、パクスレディースクリニック、横須賀マタニティークリニック

【皮膚科】

いまざわ皮フ科、金丸皮膚科、鴨居皮膚科、久里浜駅前皮フ科、コスモス皮膚科、長岡皮膚科医院、中林皮膚科、中村皮膚科、峯村皮膚科クリニック、新のび皮フ科、安田内科・皮ふ科

【その他医院】

青山医院、今井内科クリニック、いまにしクリニック、金谷医院、工藤医院、斎藤医院、湘南グリーンクリニック、鈴木クリニック、同胞援護会衣笠診療所、鳥海医院、中村外科整形外科

【総合病院】

浦賀病院、衣笠病院、自衛隊横須賀病院、湘南病院、横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院